

■ 特集
知をみがくということ
理事長に聞く「自分自身を輝かせるために」
脳科学から見た「学び」とは
乳児から高齢者までの発達と学び
学習のデザイン
理解のための「足場」と仲間の力
認知症にみる人の不思議

■ シリーズ VOICE
■ シリーズ 私の先生・私の教え子



中庭のイルミネーション(畿央大学)
昨年12/1～12/20人と人の絆と繋がりがさらに強固なものになることを期待して、畿友会(畿央大学学生自治会)がLEDライトで電飾を灯しました。



毎年恒例の「卒業研究・作品展」が、今年も3月に行われます。
会場は奈良市のならまちセンターです。
今、4回生の研究や制作も佳境に入り、力ある作品・論文をお披露目できるよう頑張っています!!
一般の方にも公開していますので、ぜひお立ち寄りください。

会場 奈良市ならまちセンター 企画展示ギャラリー ほか
会期 2012年 3月3日(土)9:30～19:00 3月4日(日)9:00～16:00
主催 畿央大学健康科学部 人間環境デザイン学科

編集後記

2012年は、畿央大学が10年目を迎え、また関西中央高校は新校舎が完成するなど、冬木学園にとって大きな節目の年になります。本年も誠心誠意、真心を尽くし、進歩していく冬木学園にご支援、ご協力をお願いいたします。

関西中央高等学校

表現・情報コース1期生卒業記念公演
大コウカイ時代

2009年開設の表現・情報コース第1期生による卒業公演「大コウカイ時代」。例年行ってきた学年末発表公演と合わせて、はじめて校外で開催します。表現・情報コース1・2年生の演劇・ダンスに加え、3年生が情報の授業で作成したドラマも上映。
盛りだくさんの卒業記念&学年末発表公演にぜひご来場ください。

日時 2012年2月25日(土)13:00 開演
会場 橿原文化会館小ホール
奈良県橿原市北八木町3丁目65-5
TEL 0744-23-2771 (無料)



畿央大学附属幼稚園

生活発表会

恒例の生活発表会が今年も桜井市民会館で行われます。マーチング、歌や手話、オペレッタ、和太鼓など、日ごろの保育の成果をご覧ください!



昨年の生活発表会の様子

日時 2012年3月3日(土)9:00 開演
会場 桜井市民会館
奈良県桜井市大字栗殿202番地 TEL 0744-45-0964 (無料)

(理学療法学科リカレント教育)

『理学療法特別講演会』ご案内

日時 2012(平成24)年2月4日(土)14:00～16:00(受付)13:30～
会場 畿央大学L101講義室



生活習慣病、メタボリックシンドロームを有する患者へのリハビリテーションのすすめ～再発予防、疾病予防、健康増進に向けて～

講師/畿央大学 理学療法学科 助教 松本 大輔 先生

知をみがぐと いうこと

生きていく上で学ぶ喜び、知る楽しみを感じることができ
るのは、とても幸せなことです。冬木学園ではその建学の
精神の「三」に「知をみがぐ」をあげています。今回の特集で
は「知をみがぐ」ことの意味合いを考え、学びについて幾つ
かの角度から考察して頂きました。これからも日々新たな
気持ちで、知をみがぎ続けていきたいものです。

理事長に聞く

「自分自身を 輝かせるために」

冬木学園理事長
冬木 智子



**興味を持って繰り返すことが
知をみがぐことにつながる**

冬木学園は、建学の精神のひとつに「知をみがぐ」を挙げています。「知」を一言で表すと「知る」ということ。その背景には知ろうとする気持ちがあり、その根本には興味を持つ心があります。

興味を持つ対象は、生きている人間や動物など動いているもの、耳から入ってくる音など、見聞きするもの。美しい音、優しい声、あるいは冷たい心を伝える声などを感じとっていくことが、本人の知力となつて蓄えられていきます。

たとえば幼稚園児は、先生の言葉や表情からさまざまなものをくみ取り、自分の知能としていきます。小学校に入ると先生とのやり取りを通じて文字を学び、計算を覚え、徐々に知識を蓄えていくわけです。知をみがぐするためには、興味を持つことのほかに、繰り返すことも大切です。日本人初のノーベル賞受賞者、湯川秀樹さんは、研究を重ねる一方で、祖父から継続するよう言いつけられた漢詩の素読をずつ

と続けておられたそうです。ノーベル物理学者でも、そうした努力を続けて力を積み重ねていらつしやつたのです。

よく「金剛石は磨かずば玉の光は出でざらん」と言われます。金剛石は、最初から輝いているのではなく、人の手によつて磨き続けられた結果、輝きを放つようになるという意味です。自分自身を輝かせるには、磨き続けることが大切。それもまた、「知をみがぐ」ということではないでしょうか。

**子どもに時間を守らせることは
人格形成の基本に**

子どもが知をみがぐために重要なのは、家族関係です。子どもは親に繰り返言われたことを身につけていきます。たとえば、「食べる前には必ず『いただきます』と言いなさい」と何度も言われると、言われなくても「いただきます」と言うようになります。つまり、それがしつくととなり、本人の知となるのです。せるには繰り返すことが大切です。幼少から起床・

就寝時間、食事の時間、帰宅時間などを守るなど、知をみがぐために繰り返す行いは、人格形成の基本だと考えています。

世の中には様々な規則があり、それらを守っているから平和に暮らすことができるのです。しかし、残念なことに規則を守れない人もおり、悲しい事件も少なくありません。その原因は、幼い頃からの積み重ねができていないからで、さらに言えば親が子どもの知をみがぐとしなかつたことにあるのではないのでしょうか。

**学生の知をみがぐ教師は
生徒と心を通わせることが大切**

学校では授業が「知をみがぐ」一助となります。先生は、限られた時間の中できつちり説明できるように、圧縮した言葉を使う必要がありますから、言葉を知っておくことはとても大切ですね。

また、先生方には、学生の顔を見ながら話し、思いやりを持って授業をしていただきたいと思えます。黒板に書いてもすぐに消してしまつたり、生徒に見えない下のほうに書いたりする先生もいらつしやるようですが、それはとても残念なことです。なぜなら知識は人から人へ伝えていくもので、学ぶ側は教師と心が通い合つて初めて、学びが喜びになるからです。しかし、教える側が自分に目を向けてくれないと、吸収する意欲はわきません。実際、学生にアンケートを取ると「先生がうつむいて授業をしている」「黒板ばかり見ている」と不満の声が寄せられました。学生の知をみがぐするためには、ただ知識を話すのではなく、学生の顔を見て伝えることも大切なのです。

**研究の積み重ねが発見につながる
まずは「なぜ？」と問うことから**

私は「知をみがぐ」という言葉の中に「研究的態度を養う」という意味も込めています。それは、たゆまぬ研究過程において、必ず何かを発見できると

考えているからです。ニュートンがリンゴが落ちるのを見て万有引力の法則を発見したのは、偶然ではなく、それまでの研究の積み重ねが大きな成果に結びついたので。

研究的態度を養うためには、常に「なぜ？」と問うことが大切です。私が幼い頃、寝ていた部屋から庭のみみじの大きが見えたのですが、ある日、その幹にカタツムリがピツタリくつついていました。じつと見ていると、時間をかけてカタツムリは動いていました。しかも、どういうわけか、落ちないんです。それを不思議に思い、理由を知ろうと辛抱強く考えたこともありました。

**色々なことに興味を持ち
たくさん疑問を見つけてほしい**

今の子どもたちに「なぜ？」という疑問が自然にわいてこないのは、昔に比べて何でも便利になつたからではないでしょうか。料理を例にとると、昔は「どうしたら美味しく味付けができるのか」をよく考えました。でも今の子どもは、美味しいものは簡単に手に入れることができますから、そういうことを考えなくとも不自由しないですね。しかし、そこで興味を持って一歩掘り下げて考えることを繰り返せば、新たな発見ができるのではないのでしょうか。

今、私が興味を持って繰り返していることは、朝刊・夕刊を毎日読むことです。特に小説は面白く、明日はどうなるのかな、と楽しみにしています。

色々なことに興味を持ち、感じることは大切です。無関心であること、特に人に関心を持たないのは、相手に対して失礼ですね。相手に関心を持ってこそいい話ができるわけですし、新たな発見もあるのです。色んな人に会つて、うまく言葉を使い分けられるよう努めることもまた、「知をみがぐ」ということ。日常生活でも努力できることはあるので、継続して取り組むことが大切ではないでしょうか。

脳科学から見た「学び」とは

人は自分の体験から学ぶことができる生物です。知識は体験を通じて脳に蓄えられますが、何でもかんでも学習されるわけではありません。自分の興味あるもの、大事なもの、生命に関わるものと、脳はその個人にとって最優先すべきものから学習するように出来ています。その学習には親や教師といった先輩からの援助が必要であり、子は親を模倣することで世界を学びとって発達して行きます。

知能の発達プロセス

何かについての知識を得るためには、それを調べなければなりません。調べるという行為は自分の身体を通じて生まれます。人は身体を使って環境を探索すると同時に、その際、生まれる感覚によって経験知を得ていきます。脳は身体と環境が相互作用することで活発に働きます。発達心理学者のピアジェは子どもの発達を大きく二期に分けていますが、一期にあたるのが、この身体を利用した「感覚運動的段階」です。その次が、自分の記憶を使って想像したり、操作したりすることが可能な「表象的試行段階」です。人は五感を脳で統合し、そしてその統合過程で生まれた記憶を用いて様々な事柄をシミュレーションすることができます。このような過程を通じて知能が発達して行きます。こうした知能の発達において最近注目されているのが下頭頂小葉の機能です(図1)。ここは五感を結びつける働きをします。人の脳は触覚・聴覚・視覚的経験などを統合することで概念や知識を形成して行きますが、それに対してこの領域は積極的に関わります。例えば、リンゴという言葉を



畿央大学健康科学部
理学療法学科 教授
森岡 周

聞けば、同時にリンゴの視覚的イメージが現れたり、その触感を想起することができますが、それもこの領域の機能のおかげであり、創造性の源と考えられています。こうした脳機能は自分の体験を通じて発達していくために、五感を用いた多くの経験が学びにとっていかに重要かがわかります。

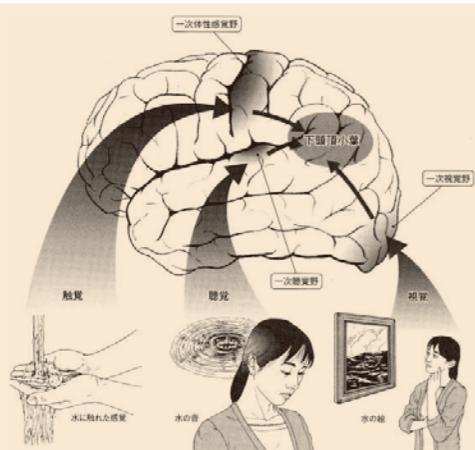
「学び」のための3つのシステム

学習は大きく教師あり学習、教師なし学習、強化学習の3つから成り立ちます。例えば明示的な知識として、イヌとネコを分類する際には、何らかの手本教師、両親、メディア、本などになる必要があります。その手本と比較して違いを探って行く方法が教師あり学習です。情報は差異から生まれます。わかることは分けることでもあり、この違いを認識する過程で、大脳皮質の連合野と小脳を含んだネットワークが構築されて行きます。良き手本の存在が重要であることを示したものです。一方、手本なしに多数のサンプルの相関や統計的な偏りをもとに、それらをグループ分けするのが教師なし学習です。これは自己組織化と呼ばれていますが、簡単にいえば経験の

蓄積です。手本がなくとも経験から蓄積された記憶に基づいて学んで行くスタイルです。つまり、手本は過去に自分がとった行動やそのとき生まれた感情です。教師なし学習は大脳皮質および皮質下の壮大なネットワークによって成立します。人は経験によってそれぞれの志向性が異なります。このネットワーク構築にとっては、失敗、成功といった白黒ではなく、その白黒の間をどれだけ経験してきたかがポイントになります。

本能としての学び

強化学習は人が持つやる気に関わりますが、やる気になるためにはドーパミンという神経伝達物質がカギを握っています。ドーパミン神経細胞は「行動を起こすことで得られる期待される報酬の量」と「実際に行動をとった結果、得られた報酬の量」の誤差に応じて興奮します。ドーパミン神経細胞が興奮し、側坐核と強いシナプス結合が生まれると快情動(楽しさ)が生まれ正の強化が行われます(図2)。報酬誤差(期待された報酬-実際の報酬)



下頭頂小葉はヒトの脳では主にブロードマンエリア39、40野を示しています。ここは触覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚という「五感」を統合し、概念や言語を形成する機能を担っています。図では「水」の概念が形成される様子を示したもので、水に触れた触覚的経験、水の音を聴いた聴覚的経験、水の匂いや実際の川や海の風景を見た視覚的経験、さらには水の匂いや水の味といった嗅覚的経験や味覚的経験も統合されます。ヒトの脳では、この領域の働きのおかげで、さまざまな感覚が脳の中で置き換えることができます。

図1 下頭頂小葉の機能を表した模式図
森岡周：脳を学ぶ(3)。協同医書出版社、2011より引用

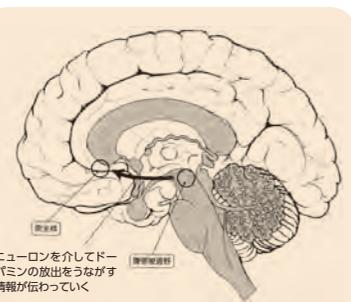


図2 中脳の腹側被蓋野と辺縁系の側坐核の関係図
森岡周：脳を学ぶ(2)。協同医書出版社、2010より引用

によって強化されるため、課題前に期待を持つことが大切であり、その期待を具体化したものが目標になります。しかし、この目標を過大に設定すると実際の結果との差が負になるために、負が強化されストレスが生じ、それが回避できないと学習性無力感を来してしまふ場合があります。また完全に報酬が予測できると誤差が生じず正の強化がされない特徴を持っています。期待を持ち待つことの大切さ、そして向き合う課題の難易度が学習にとっていかに重要であるかがわかります。外部報酬による学習への関与は、結果を称賛するのでなく努力を称賛することが効果的であることも示されています。一方、最近になって外部報酬をもらうことが目的であれば課題に興味を失うが、自発的に楽しめるのであれば興味を保たれるといったアンダーマイニング効果が指摘されています。この際、自発的に楽しめる(自己報酬)課題であれば、強化学習に関与する脳領域が継続して活性化することがわかっています。自分の変化や成長に自らが気づいて行く過程が学びにとってとても大切な要因であることがわかります。

いずれにしても、学びの過程は脳のグローバルな協調機構から成り立っています。しかしながら、それには身体を介した学び、そして環境が大きく関わることは言うまでもありません。

乳児から高齢者までの 発達と学び

受精から死までの一生のプロセスを心理学では発達として捉えています。発達、生まれつき遺伝的に備わっている素質と、経験や環境とが複雑に関わり合っています。そして、母胎内、家庭、保育所・幼稚園、学校生活、さらに社会生活、といったライフステージの拡大とともに発達の場も広がっていきます。

このような発達の過程で人はどのように学ぶのでしょうか。学びには、まね、訓練・練習、学問という意味もありますが、心理学では、経験によって比較的長い間、認知や行動の変化（好都合な変化も不都合な変化も）が続くことを学習といえます。勉強だけが学習ではなく、日常の様々な行動も学習の結果です。

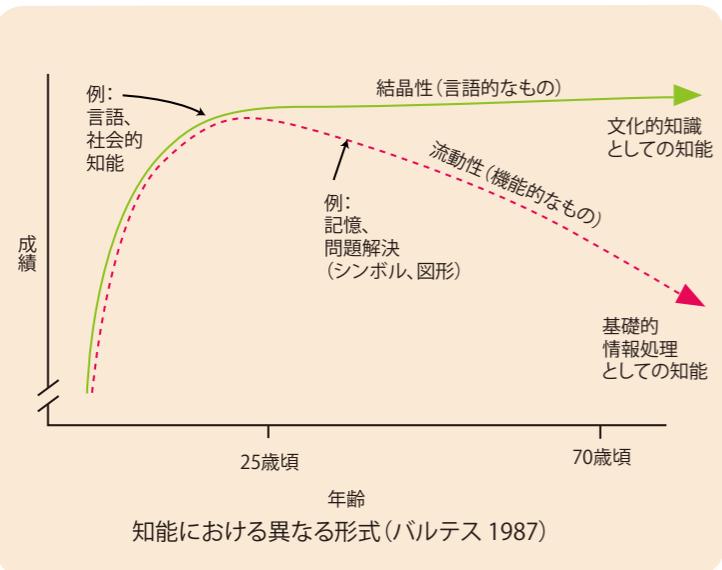
胎児期〜幼児期の学び

母胎の中で母親の声を聴いていた新生児は、生れてすぐであっても自分の母親と他の女性との声を聞き分けるといわれており、外的刺激に対しては生まれつきに備わった新生児反射で環境と関わっています。

乳幼児は、例えば自分の手足を動かすことで生じる変化を通して、自分の体や環境について自発的に学習しますが、これらは、刺激に対する自らの反応を体験する、という子ども自身の関心や興味から発する喜びの活動であり、探究心の発露です。さらに、周りの大人の行動をまねて、言語や情操、対人関係など様々に学習します。このような活動には子どもの情緒が安定していることが大切であり、その上で子どもは落ち着いて興味関心を広げていくことができます。この基盤となる

ます。技能や与えられた課題においても、繰り返し努力することでより良い結果に至ることを学習します。

このような、行動自体を目的としその行動を持続させようとする働きを内発的動機づけといい、乳児期から見られます。この内発的動機づけの他に、ほうびや罰を与えて行動を起こさせ、持続させようとする外発的動機づけがあります。これは行動のきっかけや、やる気を起こさせるために日常よく使われます。しかし、賞や罰だけによる行動は、賞や罰がなくなると起きなくなります。内発的動機づけは賞や罰とは関係なく、行動することの喜びで行われますが、この内発的動機づけに賞や罰を与えると、活動そのものの喜びが変質するため、活動が長続きしなくなること



のが、子どもにとって大切な人から安定的に関わってもらい、愛されているとしっかりと感じ取ることなのです。そして、子どもの学習意欲が周囲の大人の暖かく適切な関わりの中で共感的に支えられることが必要なのです。この支えの中で、子どもはまた、友達との遊びを通して人の気持ちがかかることや協力すること、ルールに従うことなどを学習していきます。

学校時代の学び

就学を機に、今後十数年にわたる体系的な知識を学習する学校生活が始まります。児童期は具体的な事柄について論理的に考える力を持つ時期ですが、この頃には、自分が何を認知しているかを認知していないかを認知する、メタ(高位の)認知が可能になり、より多くの知識を得ようとします。低学年では教師や親が導く目標に従った学習や社会的な活動を行います。中学年くらいから自分の目標を持ち、それに向けて努力するようにもなります。例えば、天体への関心を持つ子どもが、自分で天体について調べて学ぼうとする場合、知る喜びに突き動かされて知識だけでなく調べ方など探求の方法についても理解し

があります。子どもの周囲の大人には、この二つの動機づけをうまく利用し、内発的動機づけを大切に、子どもの意欲を損なわず支えることが望まれます。

中学生ころからは次第に論理だけの思考が可能になり知識の学習も進みます。学生時代には自分の将来のために必要な学習を行うだけでなく、より高度で専門的な知識に触れ、それをさらに研究するという形で深める面白さを経験し、社会に巣立っていきます。

成人期の学び

社会人となっても、人は職業・年齢を問わず、自らの関心のもとに新しい事柄や今まで身につけてきた技能・知識をさらに広げ、深め、研ごうとして学習します。仕事であれ遊びであれ、内発的動機づけによる喜びはその人をさらなる学習に駆り立て、輝かせます。中年期以降のエイジングの過程でも、知的側面において、新しい記憶や未経験の状況への対応、素早い処理等(流動性知能)は徐々に衰えていきますが、物事の手続きや意味の記憶、経験からくる判断力等(結晶性知能)は、年齢を重ねても発達していきます。仮に衰えることがあっても衰えは軽微です。長年の切磋琢磨の結果、深い境地に達した芸術家や功労者だけでなく、日常の人生の中で研かれてきた様々な経験が叡智となり、知恵袋として後進を指導する高齢者の姿は日常目にするところ

です。このように、学習(学び)そのものへの関心や楽しみは、幼い頃からのような発達段階でも見られ、自発的で積極的な態度に基づく喜びが充実した人生につながる、といえるでしょう。そして、さらなる高みや広がりを目指すこの学習の過程そのものが知を研ぐということと言えるのではないのでしょうか。



識央大学教育学部
現代教育学科 教授
三好 環

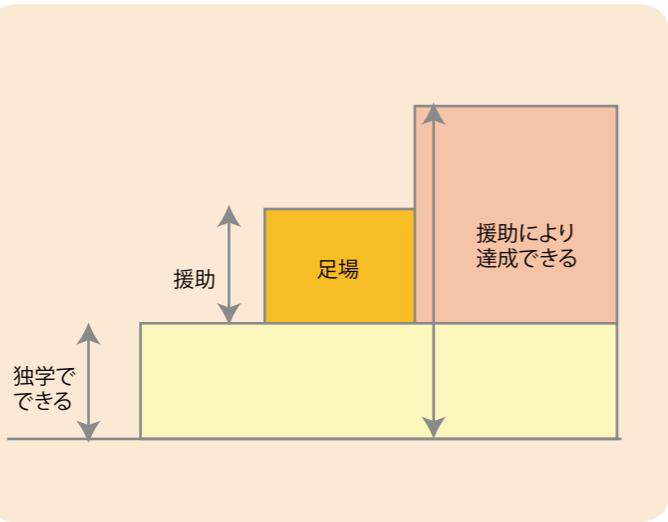
学習のデザイン 理解のための「足場」と仲間の力

できる喜び、わかる喜び

「へえ〜」「へえ〜」「へえ〜」「へえ〜」……
10年ほど前テレビ番組で使われていた、ボタンを押すと「へえ〜」と音が出る通称「へえ〜ボタン」です。「何か新しいことをした時、子どもたちが授業中でも机をたたきながら『へえ〜』『へえ〜』と言って困ります」と当時の学校の先生方からお話を聞いたこともあり、ます。この「へえ〜」は学校を卒業した後も日常生活の中でももちろん起こります。今まで知らなかったことを知った時、わからなかったことがわかるようになった時、できなかったことができるようになった時、違いが見えるようになった時など、私たちの脳内では「へえ〜ボタン」が押され、一種の快感を覚えます。

学校、特に小学校においては、日々の授業の中でこの「へえ〜ボタン」が押されるように、もちろん机をたたくことではなく、知る、わかる、できる、見えるように、そしてそれらのことに関して快感を覚えるように、教師はさまざまな工夫をしています。例えば、教科書に書いてある一般的な話を地元の話に置き換えてみたり、大きな課題に対して、達成が難しいだろうと思われる子どもには「ヒント」を出してやり、少しずつ進めるようにしたりなどです。この工夫のことを「scaffold(足場)」と言います。足場とはビルなどの建築現場で建造物を作るための作業を行う場所のことです。

三輪車から自転車への移行期に補助輪を付



ビューから聞きだす方法、さまざまな課題を与えた時の脳の活動を専門的な機器で計測する方法などです。しかし、いずれも決定打ではなく、手探りで研究がすすめられている状況です。その中でも、「子どもがこのような発言をした場合、このようなことが考えられるので、次のような教示をする」などのノウハウは教師の間で蓄積されつつあります。学会や研究会などにおいて対面で検討していることはもちろんですが、インターネットを利用し、資料を収集したり、教材研究の結果や指導案など教師自身が情報を発信したりすることが大きく影響していると考えられます。

次に補助輪、すなわち「足場を外す」タイミングが問題です。補助輪の場合は、足でちゃんと漕げるようになった、ふらつかなくなったなどの状況を見計らい、一方ずつ、もしくは両方一度に外します。そして最初は荷

ける、逆上がりの練習でタオルを使って体を鉄棒に引きつける、水泳でヘルパー(浮き)を使うなど、身体的な活動における「足場」は、具体的に見えるために教える側も教えられる側にとってもわかりやすく、また子どもたちの達成度、やる気、慣れなどの状況を見ながら、加減しやすいといえます。自転車の練習はご家庭でも取り組まれたのではないかと拝察します。

しかし、身体的な活動ではなく、知る、わかるなど脳内活動の場合、「足場」は非常に難しくなります。わかっているかわかっていないか、どこまでどれほどわかっているかを教える側も教えられる側もよくわからない場合が多いからです。「何がわからないのかわからない」という経験は誰しも少なからずお持ちだと思えます。

わかることをわかるために

そこです、わかっているかわかっていないかをわかる「ために」、さまざまな専門分野からさまざまなアプローチが取り組まれています。子どもたちの発言や行動を観察する方法、マインドマップのように絵やイラストから分析する方法、質問紙調査やインタビューを押しながら、そのうち「持つてる、持つてる」と言い荷台の手を離しながら、一人で自転車が漕げるようになります。

仲間の力で相互に支えあう

一方、脳内活動の場合このような「足場」をいかに外すかについても研究途上です。今までは高等教育機関に行く年齢に達せば、「自然と」学習者は自ら課題を見つけ、問題を設定し、適切に情報を選択・収集し、解決するとされてきました。しかし、本学の学生に限らず一般論として、この「足場外し」ができていない、いつまでたっても「足場」を期待しているという状況が少なからず見受けられます。自分一人ではできない、解決できないことを非常に嫌がり、できることで満足してしまっています。

そこで注目されているのが「仲間の力」です。ロシアの心理学者「ヴィゴツキ」は、「できる」と「できない」の間に、「仲間の力があればできる」という選択肢を用意し、一人ではできなくとも、誰かの助けがあればできるという「のびしろ」が重要だと唱えました。すなわち「足場」は、教師が用意するだけではなく、学習者同士が支えあい、協力しあうことも含まれると考えます。

そこで、長年行われてきた知識を伝達するタイプの授業に加え、議論やグループワーク、調査活動などをおこなう授業も増えてきました。小学校・中学校・高等学校では「総合的な学習の時間」などが利用されています。大学においても学生らがチームを組み、調査活動や情報発信活動を行うプロジェクト形式の授業が組み込まれ、成果を挙げています。

以上のように、わかること、理解することについて、現状の課題と状況をまとめました。教育現場を理解していただく「足場」になれば幸いです。

畿央大学教育学部
現代教育学科 准教授

西端 律子



認知症に見る人の不思議

認知症とは

わが国は少子高齢化が進行していて、平成22年の65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2958万人で、総人口に占める割合(高齢化率)は23.1%となっています。それに伴って認知症になる人の数も増え続け、2010年の推計人数は208万人ですが、2020年には300万人に増えると推計されています。認知症は、「認知機能が、後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたした状態」と定義されていて、病名ではなく記憶力や判断力が低下した状態を示す症候群のことです。以前は「ぼけ(呆け)」「こか(痴呆)」と呼ばれていましたが、2004年の厚生労働省の通知を皮切りに、用語の切り替えが進んできました。これは呼び方だけではなく、病気の捉え方や関わり方が本人・家族を中心として変化してきたからです。

認知症という言葉は誰もが知っていると思えます。「治らない病気」「かかったら自分が自分でなくなる病気」「介護が必要となり家族に迷惑をかける病気」などという恐れや不安の大きい病気です。誰でも年をとれば物忘れがでできます。けれどこの物忘れは一時的なもので、何かのきっかけがあれば後で思い出すことができます。認知症による物忘れは、出来事自身を忘れてしまうのです。このように認知症の症状には、記憶障害や認知障

がコミュニケーションをとって、楽しく過ごすことです。

認知症の人を笑顔にできるのは介護の人だけですので、病気としての認知症の特性と人としての思いを理解して介護することが大切です。

認知症本人からのメッセージ

これまで認知症になってしまうと「もう何もわからない」「理解できない」と思われることが多かったのですが、認知症の人も様々な悩みや不安を抱えながら生活しているということがわかってきました。それは認知症本人からのメッセージが発信されるようになってからです。オーストラリアのクリスティーン・ブライデンさんは、アルツハイマー病と診断されてから3年後に『私は誰になっていくの?』という本を出版しました。クリスティーンさんは、かつてオーストラリア政府で働く科学者でした。ところがある時、通勤途中で道に迷ったり、話の最中に自分が何を話していたのかが分からなくなったりすることに気付き、アルツハイマー病と診断されました。「あと5年で完全な認知症になり、そのあと2〜3年で死ぬ」と医師に言われましたが、クリスティーンさんは自分に残された



害、見当識障害などの中核症状と、脳の障害からの影響でおこる「妄想」「徘徊」「暴言・暴力」などのBPSDといういわゆる問題行動があり、そのため本人はもちろん介護する人にも負担がかかりがちです。

認知症の予防法

認知症は根本的な治療法はまだなく、進行を遅らせたり、できるだけ快適な生活を送れるようにすることが治療の目的となっています。これまでの研究で、予防効果があるのではないかとされているものの一つは運動です。1日30分程度のウォーキングを週に3回以上習慣的に継続している人には認知症が少ないというデータもあります。食事に関しては、「不飽和脂肪酸」を多く含む魚類や、抗酸化作用を持つビタミンC、ビタミンEを多く含む野菜や果物などの積極的な摂取が、認知症予防につながるのではないとも言われています。治療の上で何よりも大切なことは、リハビリテーションや予防を行い、時には薬の力も借りながら、認知症の人と介護する人

時間をどのように生きるべきか、懸命に模索し始めました。診断から10年以上たった今でも、クリスティーンさんは高い知的能力が残っていますし、ご主人に補ってもらうことで、本の執筆や世界各地での講演活動を続けています。

2004年に京都で開催された「国際アルツハイマー病協会 第20回国際会議」では認知症の人や介護する家族などがそれぞれに思いを語り、参加者に深い感銘を与えました。また2006年には京都で「認知症 本人会議」が開かれ、認知症の人が何に苦しみ、何を必要としているのか、自分たちの言葉で語り合い、社会にメッセージを発信しようという日本初の試みがなされました。「本人同士で話しあう場を作りたい」「私たちのところを聴いてほしい」「自分たちの意向を施策に反映してほしい」、家族へは「支えられるばかりでなく家族を支えたい」、仲間たちへは「ユーモアを持つとう」などの17項目のアピールをしています。人は「自分が生きていることが社会にとって意味がない」と思われることがつらいと思っていて「世の中の役に立ちたい」「仕事をしたい」と思っているのです。ケアされる対象だけではなく、役割があるのだと。認知症になっても、意欲も可能性もあるのです。私たちはそのメッセージを大切にしてい、その方が生き活きと、一人の人として生活できるよう、尊厳をもって接することが大切です。



畿央大学健康科学部
看護医療学科 講師

南部 登志江



冬木学園を支えてくださるみなさんからのメッセージをご紹介します。

榎原おみやげもの開発プロジェクトで コラボしています



有限会社 異繊維工業所 代表取締役

異 亮滋 さん

当社は、榎原市にて奈良県の地場産業である靴下等の繊維製品を製造しています。取り扱い商品は、健康関連の五本指靴下からキャラクターソックス・スクールソックス等多くのアイテムを製造しています。今回、畿央大学の学生さんと榎原商工会議所がコンペ形式でお土産物を企画開発する「榎原おみやげもの開発プロジェクト」の工芸部門に参加させて頂きました。教育に大変ご熱心な人間環境デザイン学科の加藤先生、奥村先生のゼミの学生さんと商品開発に携わる事が出来る貴重なお時間を共有できました。

加藤ゼミの学生さん達は本当に熱心で、先生に負けないくらい実践的で即商品化できそうな商品デザインのアイディアを真摯に一生懸命出してくれました。その商品群は、近い日に店頭で並んで販売されると思っても、とても頼もしく、社会人となっても即戦力として活躍され、新しい物を創造し生み出すことが出来るアイデアだけでなく責任感の強い、温かい人間性も兼ね備えた次世代のリーダーの資質を持った人材の宝庫だと確信しました。



心の成長

神戸 正美 さん

畿央大学付属幼稚園
さくら組園児
神戸大和くん 保護者

畿央大学の学生さん達には、同じ年代の子供を持つ親の目で見ても、とても頼もしく、社会人となっても即戦力として活躍され、新しい物を創造し生み出すことが出来るアイデアだけでなく責任感の強い、温かい人間性も兼ね備えた次世代のリーダーの資質を持った人材の宝庫だと確信しました。



個人と組織

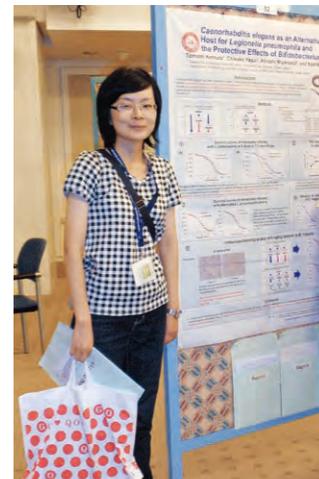


川村 騎也 さん

防衛省 陸上自衛隊
関西中央高等学校2011年卒業



自衛官として働いています。関西中央高校在学中に、担任の先生は常に学級のことをくりかえし言っておられました。「自分個人と学級、学級というのは小さな社会で、組織だ。その中でどう生活するか、どう生きるか考えられる人間にならんとダメだよ。」当時は全く意味が分かりませんでした。今私が置かれている状況はまさにその「組織」の中にいます。



知をみかくを実践

小村 智美 さん

大阪市立大学大学院 生活科学研究科
食・健康科学講座 後期博士課程2年
日本学術振興会 特別研究員
畿央大学健康科学部健康栄養学科
2008年卒業

2008年に畿央大学を卒業し、現在は大阪市立大学大学院の大学院生として研究活動を行っています。万人の願いである、健やかな老い。私は大学院で、栄養という観点から生物の老化制御の可能性を模索しています。具体的には、線虫(Caenorhabditis elegans)という小さな生物をモデルとして長寿効果をもたらす食品成分を探索し、そのメカニズムを解明しようとしています。

私の先生

私の教え子

冬木学園では、豊かな知識や優れた技術を教えるだけでなく、心を通わせ、人としての生き方を伝えていく教育をめざしています。冬木学園各校で学んだ、学んでいる教え子と教員との交換メッセージをご紹介します。

岡井 豊治 先生「畿央大学人間環境デザイン学科 特任講師」
わかりやすい授業の手法



諸橋 安奈さん
大阪市立小学校教諭
畿央大学短期大学部2004年卒業

畿央大学短期大学部を卒業し、現在は大阪市内の小学校に勤務しています。可愛い可愛い子どもたちに囲まれ、充実した日々を送っています。

短期大学の2年間は初めて学ぶことがたくさんあり、毎日がとても新鮮でした。先生方も優しく親身になって話を聞いてくださる方ばかりでした。

2回生のときの「理科教育法」では、岡井

先生に大変お世話になりました。わかりやすい講義はもちろん、菊の花と一緒に栽培させていただいたり電磁石を使ったおもちゃを作ったり、たくさんのお話を学ばせていただきました。

今でも、理科の授業の教材研究中や予備実験のときには岡井先生のことを思い出します。岡井先生のように、楽しくわかりやすい授業を行えるようになるにはまだまだですが…。

岡井先生を思い出すときは優しい笑顔が一番に浮かび上がります。いつも優しい笑顔の岡井先生のように、私も笑顔を忘れずに子どもたちと過ごしていきたいと思っています。

松尾 篤 先生「畿央大学健康科学部理学療法学科 准教授」

基本を大切に



佐藤 達也さん
社会医療法人生農会府中病院 理学療法士
畿央大学理学療法学科2010年卒業

現在総合病院に勤務し、脳外科、整形外科、外科や内科といった様々な疾患を有する方に対し、理学療法を提供しています。疾病の発症から1日、数日といった方も担当しており、全身状態のリスク管理に注意しながら業務を行っています。

就職し2年目を迎えました。現場において評価から問題点を抽出し、治療を行って

いくプロセスが実践されていく際、いつも「基本が大事」である事を実感します。学生時代、実技や座学において同級生と何度も練習、学習を繰り返した内容は貴重な財産となっており、松尾先生にも授業・その他においても大変お世話になりました。また、ゼミを通じ理学療法士として最新の知見を知る事、その実践、自らも臨床研究を行う事の重要性：これらを当たり前のスタンスで教育していただいたことは本当にありがたい事でした。

今後もまだまだ欠けている部分は多数ありますが、基本を忘れることなく、それらも一つ一つ埋めていけるよう頑張っていきます。

今後はまだまだ欠けている部分は多数ありますが、基本を忘れることなく、それらも一つ一つ埋めていけるよう頑張っていきます。

大垣 圭史 先生「関西中央高等学校 1年2組担任 国語科」
何事にも全力投球で



永井 智哉さん
関西中央高等学校
スタンダードコース 1年

僕の担任は大垣先生です。先生はとても明るくて優しい先生です。ただ優しいだけでなく、時には厳しいときもあります。厳しいことを言われたときは、自分のために言ってくれていると感じ、しっかりとしないとけないなと思います。また先生は何事にも全力で、人一倍頑張る先生で、とても頼りがいがあります。

僕は入学してまだ1年も経っていませんが、先生からはすでにたくさんのお話を学びました。学習面や生活面はもちろんのこと、社会に出ても恥ずかしくない人間になるために必要なことなどを学んでいます。また土曜日のi-seek講座ではユニセフの1環で環境美化に取り組み、花植えや畑作り、野菜を育てるなど、普段の授業では出来ないことを経験させてもらっています。何事にも全力で、優しく明るい先生。でも時には厳しい先生。僕も先生のように、何事にも全力で取り組み、当たり前前の事をちゃんとできる人間になりたいです。

三井田 康記 先生「畿央大学大学院健康科学研究科 教授」

車いす環境にも配慮



大橋 一真さん
畿央大学大学院修士課程在学中
畿央大学人間環境デザイン学科
2009年卒業

自分が車いすを利用している事を活かせる「バリアフリー建築」について学びたいと思っていた高校2年の時に畿央大学が開学。バリアフリー建築を学べると知り、進学を決めました。三井田先生との出会いは入学式での担任紹介でした。今では三井田先生に出会うために畿央大学に来たと思っています。迷っている時にはいつも助言して頂きました。自分に履修可能な

ろうかと、実習科目の登録を戸惑っている時には「大橋君の受けたい授業をとれば良いよ」と履修環境に配慮して頂きました。住宅の設計課題では「大橋君が住みやすいように設計したら」と助言いただいたお陰で、車いす独自の視点を活かしたバリアフリー設計をするようになりました。大学院入学後には、いきなり6週間入院してしまいましたが、「長期履修制度で1年延ばせるよ」と体調にも配慮して頂きました。今は先生のご指導の下、劇場など鑑賞場のユニバーサルデザインの研究をしています。将来は真のバリアフリーを広める仕事をしていきたいです。

Comment

大橋くん、君が元気を取り戻して、ひと安心しました。私は君から大切なことを学びました。病気にもめげず、前向きに設計や研究に取り組む君のひたむきさから、病気の不安やつらさを人に見せず、弱音をはかない君の心の強さから、何事にも感謝を忘れない君の謙虚さから、君のまじめさから、実に多くのことを私は学びました。君なら、きっと、心のかよったバリアフリーデザインを広める仕事ができると確信しています。



Comment

何事にも一生懸命で、周りにも気を遣える優しさを持った永井君。面倒なことや、しんどいことを頼んだりしても快く引き受けてくれていつも感謝しています。後期からは学級委員長としてクラスをまとめ、今まで以上に頑張ってくれていますね。しかし、まだまだ学ばなければならないことがあります。これから起こる様々な困難をひとつひとつ乗り越え、よりいっそう魅力的な人間になってください。



Comment

佐藤君といえば、学生時代から真面目で、不器用で、頑固で…などなど、ステキな特徴を存分に発揮していましたね。2009年度の松尾ゼミのリーダーとして、その存在感を十分に発揮し、ゼミメンバーを引っ張ってくれていました。就職してからも勉強会で毎月会えることを大変嬉しく思っています。佐藤君が、臨床家として成長していく姿は本当に頼もしく感じています。初心を忘れずに、最高の理学療法士を目指してお互い頑張りましょう！



Comment

2回生在学当時、彼女の郷里(新潟県中越地方)で大きな地震がありました。被災地を気遣いながらも学業に専念していた姿が脳裏に焼き付いています。その甲斐あって大阪教育大の編入試験にも合格し小学校教員への道を確かなものにされました。ふくよかで優しい表情の中に確たる信念を秘めて日々子どもたちに接してくれているものと思います。更なる精進を重ねられ、子どもたちに慕われ尊敬される先生になってください。



7月

2日(土)・3日(日) ニューロリハビリテーションセミナー基礎編
 9日(土) 後援会総会・保護者懇談会
 16日(土)・17日(日) オープンキャンパス
 30日(土) 第6回バッククッキング講習会



バッククッキング講習会

1日(金) 第2回教育講演会
 8日(金) 部活動壮行会・激励会
 30日(土) 第1回オープンスクール



オープンスクール



教育講演会

1日(金) Kioオープンガーデン
 4日(月) 七夕保育参観
 7日(木) 七夕まつり
 9日(土) 親子交流会
 15日(金) Kioオープンガーデン
 20日(水) 終業式
 21日(木) 年中児・お泊まり保育
 夏期自由保育(2日間)



お泊まり保育

8月

16日(火)～20日(土) のびのびキャンプ
 17日(水) 教職員のための夏の公開講座
 20日(土) ひらめき☆ときめきサイエンス
 20日(土)・21日(日) オープンキャンパス
 26日(金)～28日(日) えほん展なら
 28日(日) 第3回やまとフォーラム
 30日(火) 御所市との連携協定調印式



のびのびキャンプ

2日(火)～5日(金) 特進コース進学合宿
 22日(月) 新校舎地鎮祭
 27日(土) 第2回オープンスクール



地鎮祭

2日(火) Kioオープンガーデン
 20日(土) 清掃奉仕日
 25日(木) Kioオープンガーデン
 夏期自由保育(4日間)



清掃奉仕

9月

10日(土)・11日(日) ニューロリハビリテーションセミナー応用編
 22日(木)～26日(月) 新宿高島屋「大学は美味しい!フェア」出展
 「い!フェア」出展



大学は 美味しい!フェア

16日(金) 体育祭



体育祭

1日(木) 始業式
 9日(金) 家族(敬老)参観



家族(敬老)参観

10月

6日(木) 冬木智子特別奨励賞授与式
 22日(土)・23日(日) 畿央祭・ウエルカムキャンパス・ホームカミングデー
 24日(月) クリーンキャンペーン



畿央祭

8日(土) 第1回入試説明会
 21日(金)・22日(土) 文化祭



文化祭

8日(土) 秋季運動会
 14日(金) Kioオープンガーデン
 20日(木) 秋の遠足(海遊館)



運動会

11月

5日(土)・6日(日) ものづくりメッセ 2011出展
 12日(土)・13日(日)・20日(日) 公募推薦入試
 27日(日) 冬の市場まつり出展



冬の市場まつり

2日(水) クリーンキャンペーン
 5日(土) 第2回入試説明会
 8日(火) 台湾明台高級中学交流
 28日(月)～12月1日(木) 2年生修学旅行(石垣島)
 30日(水) 1年生・大学専門学校見学バスツアー



修学旅行



台湾明台高級中学交流

3日(木) バザー展
 4日(金)～5日(土) 年長児・卒園旅行(国立曾
 爾青少年自然の家)
 14日(月) 防火訓練
 25日(金) 子ども成長・造形展
 28日(月) Kioオープンガーデン



卒園旅行



バザー展

12月

3日(土)・4日(日) ニューロリハビリテーションセミナー臨床編
 7日(水) ナント農商工ビジネスフェア 2011出展
 10日(土) 一般入試対策講座
 17日(土) FEP企画 柳本晶一氏特別講演会
 26日(月) 防災訓練



柳本晶一氏講演会

5日(月) 創設のころを偲ぶ集い
 15日(木) リーダー研修会
 18日(日)・23日(金) 入試対策説明会



創設のころを偲ぶ集い

2日(金) 交通安全人形劇
 5日(月) 保護者給食試食会
 6日(火) おもちつき大会
 9日(金) マラソン大会
 13日(火) クリスマス会
 22日(木) 終業式



クリスマス会

畿央大学

関西中央高等学校

畿央大学
附属幼稚園

●畿央大学入試概要

募集人員(人)

学部	学科	入学定員	AO入試	公募推薦入試	一般入試			センター試験利用入試			社会人入試
					前期	中期	後期	前期	中期	後期	
健康科	理学療法	60	3	23	19	5	2	5	2	1	若干名
	看護医療	90	3	40	30	6	2	6	2	1	若干名
	健康栄養	70	3	31	22	5	2	4	2	1	若干名
	人間環境デザイン	45	3	19	12	4	2	3	1	1	若干名
教育	現代教育	145	6	67	45	10	4	7	4	2	若干名

入学試験日程

試験区分		試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
一般入試	前期A日程	1月23日(月)	本学/名古屋 大阪/岡山	1月4日(水)～1月13日(金)	1月31日(火)
	前期B日程	1月24日(火)	本学/大阪		
	前期C日程	1月29日(日)	本学/大阪	1月4日(水)～1月20日(金)	2月4日(土)
	中期日程	2月18日(土)	本学/大阪	1月23日(月)～2月10日(金)	2月24日(金)
	後期日程	3月10日(土)	本学/大阪	2月17日(金)～3月2日(金)	3月16日(金)
センター利用入試	前期日程	—	独自試験なし	1月4日(水)～1月13日(金)	2月4日(土)
	中期日程	—		1月23日(月)～2月10日(金)	2月24日(金)
	後期日程	—		2月17日(金)～3月2日(金)	3月16日(金)

3年次編入学試験日程(教育学部)

試験区分	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
後期日程	2月11日(土)	本学	1月16日(月)～2月3日(金)	2月17日(金)

●畿央大学大学院入試概要

募集人数

課程	募集人員		修業年限
	1期日程	2期日程	
修士課程	15名	5名	2年
博士後期課程	3名	2名	3年

入学試験日程

試験区分	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
2期	2月11日(土)	本学	1月16日(月)～2月3日(金)	2月17日(金)

●畿央大学助産学専攻科入試概要

入学試験日程

試験区分	試験日	受験会場	出願期間(消印有効)	合格発表日
一般入試	2月11日(土)	本学	1月16日(月)～2月3日(金)	2月17日(金)

畿央大学

2012年度入試は10月のAO入試に続き、11月には前半戦のヤマ場となる公募推薦入試が実施されました。長引く不況の影響で、近年は資格の取れる大学や就職に強い分野が人気を集めています。畿央大学でも全学科で昨年の志願者数を上回り、全体では4年連続の志願者増となりました。今年も理学療法や看護などの医療系分野で大学・学部の新設が相次ぎましたが、推薦入試ではあまり影響を受けませんでした。「就職に強い」畿央大学としてイメージが定着、人気をよんだものと思われる。特に増加が目立ったのは看護医療学科と健康栄養学科で、女子高校生の4年制大学志向、資格志向が一層強くなっているのを感じました。

一方、年明けからは一般入試・センター試験利用入試の出願が始まりました。2012年度入試の本番とも言えますが、受験生の資格志向や実学志向の流れに変化はなく、畿央大学は一般入試やセンター利用入試でも多くの受験生を集めそうです。ただし、昨年の志願者の増加が大幅だったことから、反動で志願者が減少する可能性もあるでしょう。

畿央大学大学院

大学院健康科学研究科では、今年4月より修士課程に看護学分野を新たに開設しましたが、社会人を中心にニーズは高く、順調に入学者を獲得しました。9月に実施された2012年度1期入試でも、大幅に増えた昨年に比べると減少しているものの、博士後期課程も合わせるとほぼ昨年並みの志願者数となりました。来年2月の2期入試でも志願者の増加が期待されます。

助産学専攻科

開学以来成長を続ける畿央大学に、2012年4月、助産学専攻科が誕生します。看護医療学科が初めての卒業生を送り出すタイミングで1年制の専攻科ができたことで、助産師をめざす学生は「4年+1年=5年」で看護師・保健師・助産師の資格取得が可能になります。助産学専攻科の受験資格は看護師免許を有する女性で、4年制大学卒業の学位を持つこと。本学看護医療学科卒業生がそのまま進学することもできますし、他大学卒業生や、社会人経験者も入学可能です。産婦人科医が不足している現在の日本では、通常分娩を単独で行える助産師のニーズは高まるばかり。その期待に応え、いのちと向き合い、未来を生み出す助産師を育成していきます。

●畿央大学 2011年度の就職状況



畿央大学では、キャリアセンターに各学科専任の担当者を配置し、集団指導と個別指導の両面から学生の支援を行っています。支援の中核となるのが、「キャリアガイダンス」です。企業就職希望者には3回生の4月から1月にかけて毎週(全29回)実施しています。また、私立幼保就職希望者には、3回生の5月から4回生の7月にかけて20回実施します。病院就職希望者には、5月あるいは8月に集中講座として、就職のためのガイダンスやセミナーを開催しています。また、学内に企業の

厚生労働省などが発表した10月1日現在の就職内定率は59・9%と依然厳しい状況が続いています。特に今年は東日本大震災の影響を受け、大手企業の選考が数カ月後倒しになり全体の就職活動が長期化しました。そのような状況の中でも、畿央大学生は今年も大健闘しています。12月10日現在での健康科学部の就職内定率は80%を超えています。就職先が未決定の学生たちは現在も積極的に活動を継続しています。

厳しい状況のなかでも健闘しています

キャリアセンター・教職支援センターに対する学生の声



私は、就活を始めたころからほとんど毎日のようにキャリアセンターにエントリーシートを添削してもらいに行っていました。不安なことがあれば、親身に相談に乗ってもらったり、個人面接の練習やグループディスカッションの練習も見ていただきました。そのお陰で自信を持って本番に臨むことができ、内定をいただくことができました。選考が進んだ時や内定をもらった時に一緒に喜んでもらって、とても嬉しかったです!



毎朝、教職支援センターへ行き、先生たちと会話をしてから、図書館で勉強していました。思うように行かず、先生の前で泣くことも何度かありました。そのときいつも先生の「やっついたら必ず結果はついてくる」という言葉が、私の励みでした。そのお陰で、教員採用試験に合格できました。

人事担当者や病院や施設の責任者等を招いての就職説明会や就職活動に必要な各種準備講座を開催し、手厚い支援を行っています。担当者の個別の相談件数は年間で1000件を超えます。またメールを使用しての相談も随時行い、学生の状況をリアルタイムにつかむことでの確かな支援を実現しています。

一方、教員希望者についても、平成24年度から教壇に立つ教員の採用試験において、今年度も昨年度の結果を上回る好成績をおさめることができ、今年度も昨年度5名に対して今年度は6名、栄養教諭は昨年度がゼロであったところを新たに3名が最終合格することができました。また、公立幼保を目指す学生たちも、合格をつかみ始めています。教員採用試験でこれだけの好成績をおさめることができ、要因もまた、企業就職への支援と同様、顔が見えるきめ細かな支援にあるといえるでしょう。



畿央祭ホームカミングデー
「同窓会サロン」を開催！

今年も畿央祭に合わせて、2011年10月22日(土)・23日(日)に「同窓会サロン」を開催しました。2日間で合計234名の卒業生のみなさんにご来場いただきました。(内訳は、桜井女子短期大学卒業生37名、畿央大学短期大学部卒業生15名、畿央大学卒業生182名。)

同窓会サロンは、昨年から実施していましたが、一昨年146名、昨年186名のご参加をいただき、毎年約50名ずつ増加してゆき、大盛況となっています。

大学卒業生182名のうち104名が



今春(2011年3月)の卒業生だったことも特徴的です。卒業後はじめて大学に来たという人もいて、「サロンが集合場所になっている」という嬉しい声も聞かれました。

サロンでは、例年畿央祭の模擬店に使える金券とお茶の配布に加え、昨年からガラガラ抽選会を実施しています。1等から5等までで当選確率は、なんと5割。

1等は電子メモパッド! ご当選おめでとうございます!

今年は、2日間とも学長にご来場いただくことができ、サロンの盛況と卒業生の活躍の様子を称賛していただきました。

また、今夏から同窓会の補助が設けられたことで、この日に合わせた部会開催もあつたようです。23日(日)に学生食堂で行われた「桜井女子短期大学1972年卒業生の同窓会」には、学長先生にもご出席いただきました。約40年前に、当時桜井にあつた短大を卒業された先輩方にとっては、築8年の畿央大学新キャンパスに來られるのが初めてという方も多数おられ、旧友と歴史を振り返りながらも、短大から大学に変更になり男女共学となったキャンパスを、畿央祭を通して満喫していただいたようです。



今年の企画として、学園祭に來られない先生方からはメッセージを頂戴しました。メッセージ総数31通。授業に研究に、大忙しの先生方ですが、いつも卒業生のことを大切に思ってくれていますよ!

今年の
畿校会総会は、
5/20(日)
11時から
の予定です。
みなさんお誘い
合わせのうえ、ご
出席ください。



畿校会同窓会レポート

畿校会は、桜井女子短期大学、畿央大学短期大学部、畿央大学の卒業生のみなさんの同窓会です。

■桜井女子短期大学 1972年卒業生

開催日:10月23日(日)(畿央祭の2日目)
場所:畿央大学 学生食堂地階
参加者:12名+学長先生

40年ぶりの再会でした。学長先生を囲んでの同窓会は、あっという間に40年前にタイムスリップしました。学長先生が「サミュエル・ウルマン」の『青春』を朗読してくださいました。今、還暦を迎える私たちは、青春の第2ステージにいます。桜井女子短期大学で学べたこと、学長先生に出会えたこと、すばらしい仲間と出会い学べたことを誇りに思いながらの同窓会でした。



■理学療法学科 5期生

開催日:9月11日(日)
場所:大阪心斎橋のレストランバー
参加者:28名

卒業後初めての飲み会でした。同期の約半数にあたる28名が集まりました。学生時代から呑み会をいっぱい行なっていました。今回は社会人らしく、今までとは違ったおしゃれな店をチョイスしてみました! 畿央大学で出会えた仲間をいつまでも大切にしたいです。



■健康栄養学科 3期生

開催日:10月9日(日)
場所:大阪府の青少年センター
参加者:25名+先生2名

昨年に引き続きBBQ大会をしました。3連休の真ん中ということもあり、熊本や岡山から來てくれた人もいました。真つ昼間からお酒を片手に、学生時代の話や先日結婚した学生の話などで大盛り上がり。先生も一緒になってはしゃぎ、学生に戻ったような気分になり、あっという間の楽しい時間でした。同窓会補助金と卒業後も親身になって下さる先生方に感謝です!



■健康栄養学科 5期生

開催日:9月3日(土)
場所:大阪心斎橋のイタリアンレストラン
参加者:20名+先生1名

台風が接近していたにも関わらず21名が集まり、不参加の先生方からはメッセージを多数いただきました。卒業して半年。仕事に慣れてくるにつれ悩み事も増えてきましたが、同窓会が始まると、笑顔が絶えず学生の気分に戻ったように仕事の話や大学生活の思い出話で盛り上がっていました。今後も定期的に同窓会を開催し、情報交換やリフレッシュできる場を設けていきたいと思ひます。



■フットサルサークル『FREEDOM』

開催日:10月22日(土)(畿央祭の1日目)
場所:大阪難波の創作料理店
参加者:卒業生21名+現役13名

「FREEDOM」は、2005年に2期生によって創設されたフットサルのサークルです。遠方のメンバーも仕事を終えてかけつけ、現役生も加わって集うことが出来ました。今回は仕事や結婚などの報告があり、「みんな大人になったな」としみじみ感じました。後輩にFREEDOMノリが受け継がれ、ますます愉快なメンバーが増えてくれたらいいと思ひます。今後は飲み会だけでなくフットサルもしたいです♪

桜井女子高校・関西中央高校同窓会 蘭友会総会のご案内

- ▶日 時:平成24年4月15日(日)午前10時~
- ▶場 所:関西中央高等学校
- ・メモリアルホール …総会・アトラクション・やなせなトーク&ライブ
- ・カトリアホール ……立食による懇親(予定)



連絡先:
関西中央高等学校
tel:0744-43-1001

平成23年蘭友会総会

星も凍るような酷寒の睦月となりましたが、皆様方には、健やかに過ごしのことと存じます。「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」との教育方針の元、連続と受け継がれてきました桜井女子高校・関西中央高校は、「蘭友会」皆様のお陰をもちまして、今日もなお進化・充実しております。その発展している様子を、是非一度、ご覧いただきたいと願っております。第1期生から今年卒業される方々までが、一堂に会しての交流会の場でもあります「蘭友会総会」を左記日程で開催いたします。ご多忙の折とは存じますが是非一度、母校に帰ってきていただきますようお願い申し上げます。皆様のご参加をお待ちしております。

冬木学園 2012(平成24)年の仕事始め式を行いました。

2012(平成24)年1月4日、畿央大学、関西中央高等学校、畿央大学付属幼稚園が合同で、畿央大学構内にある冬木記念ホールで、『冬木学園仕事始め式』を行いました。

冬木智子理事長のご挨拶において、今年にかける思いの言葉は「真心を尽くし、潤いのある人生を生きる」です。友達や先生に会いに行きたいと慕われる幼稚園を、高校・大学においては、学生の瞳をしっかりと見て、生徒・学生たちが何を求めているかを見極め、授業に臨むことが大切です。卒業後、何年経っても忘れぬ教師と出会ったと感動を覚えてもらえる教職員であってください、と締めくくられました。

続いて、金子健康科学部学部長、白石教育学部学部長、西川関西中央高校校長、宮本付属幼稚園副園長からそれぞれの学部、各校の抱負を述べていただき、3校の2011年の教育活動を振り返るビデオ上映などを行い、幼大連携、幼高連携、高大連携、そして社会連携の大切さを再認識しました。

その後、学食地階ラウンジにて、3校の教職員の親睦を深めるために懇親会を開催しました。昨年に顕著な業績をあげられた方を紹介する「冬木学園スポットライト2011」やゲームを折り込み、和やかな会となりました。

万事に真心を尽くし
潤いのある学園をめざして！



歌う尼さん“やなせなな”さんの基調ライブに感動！

◆第3回やまとフォーラムを開催！

冬木学園は、地域の文化交流の要となりその発展に貢献することをめざして毎年8月の日曜に公開講座『やまとフォーラム』を開催しています。『第3回やまとフォーラム』が、2011年8月28日に開催されました。

今回の基調ライブには約520名が参加。奈良県高取町教恩寺6代目住職・シンガーソングライターとして活躍されている“歌う尼さんやなせなな”さんを招き、コンサート&トーク形式で行われました。やなせさんは、宗派を問わず全国のお寺を廻りコンサートは140回以上、3月東日本大震災前から旧知の寺院でチャリティコンサートを何度か開催していることなど、自身の体験逸話を織りまぜて歌っていただきました。



公開講座

※やなせなさんのライブは、関西中央高校にて4/15(日)蘭友会総会でも行われます。



やなせなさんコンサート&トーク

学園 TOPICS

元全日本女子バレーボール監督「柳本晶一先生特別講演会」を開催しました。

◆第5回冬木学園教育推進プロジェクト(FEP)ホール企画

2011(平成23)年12月17日に、第5回冬木学園教育推進プロジェクト(FEP)ホール企画として、元全日本女子バレーボール監督の柳本晶一氏をお招きして、参加者350名の方々に講演していただきました。

テーマは「人生、負け勝ち」。2000年シドニーオリンピックでは予選敗退した全日本女子バレーボールチームを監督として引き継ぎ、2004年アテネで5位、2008年北京でも5位入賞を果たし、「復活請負人」とも言われた柳本氏。

オリンピックでは150%の実力発揮が必要で、選手の能力を120%まで引き上げ、あとの30%は人間力涵養だと持論を展開し、メンバーを信頼しても信用せず大胆な選手起用をされました。負けばかりは続かない、挫折をバネに高い目標を持つことで変わる！選手の成長の瞬間を見逃さずその時に褒めて指導すること、目標をしっかり立て夢が現実のものとなるよう情熱を燃やすこと、負けを教訓に勝ちを呼び込む信念を持つことなど、全日本女子バレーボール復活の秘話を熱く語っていただきました。



柳本晶一氏講演会



スポットライト 2011



◆地元小学校との幼小連携を行いました。

畿央大学付属幼稚園は今年度から、地元の朝倉小学校と幼小連携をはじめました。付属幼稚園の年長組と朝倉小学校1年生との交流として、小学生が校区の地域探検の一環で本園を訪問。クイズをしたりフォークダンスをしました。その後、「フェスタdeあさくら」の小学校行事にお招きいただき、園児が小学校でいろんな体験をさせていただきました。



◆関西中央高等学校の新校舎を建築中！

関西中央高等学校は、現在、新校舎を建築中です。(仮称)中央棟は新たな関西中央高等学校のシンボルとなる建物です。1階に校長室や職員室・事務室、保健室、応接室、2階に教室を配置する「管理棟」、式典やクラブ活動も実施できる「多目的ホール」の2棟から構成されています。この2棟が幅約10メートルの大きな屋根で繋がり、大きなゲートに見えます。

今年度の入試説明会参加者数は昨年比140%と好調です。進化する関西中央高等学校にますますご期待ください。



◆東日本大震災支援「のびのびキャンプ」を実施！

2011年8月、畿央大学の学生・教職員有志など総勢46名が、原発事故で避難生活を送る福島県の子ども29名を栃木県に招いて、3泊4日のキャンプを実施しました。

学科・学年もバラバラの学生が、レクリエーション、野外活動、工作、出し物などのイベントの企画・運営を担当。6時半起床、夜中12時を過ぎる打ち合わせが続く過密スケジュールも、「子どもたちのために！」と一致団結しました。最終日には大人も子どもも涙で顔をくしゃくしゃにしてメッセージを交換。誰かのために全力投球し、「やさしさをチカラに変える」姿から、学生の無限大の可能性を感じる4日間となりました。